

# 黒津崎公園づくり ワークショップ

第3回 NEWS

国東市役所 まちづくり推進課 まちデザイン係  
電話:0978-72-5186 FAX:0978-72-9002

テーマ：黒津崎公園の将来を描こう！

令和5年12月10日(日)

最終回となる今回は、公園周辺の施設や自然とのつながり、ゾーン毎の施設配置等について、ご意見を頂きました。

## 開会あいさつ、運営メンバー紹介



山下 主幹 伊藤 課長 徳永 氏 佐藤 先生

**事**務局の山下主幹の司会で開会しました。伊藤課長からの開会あいさつでは、今回が最終回となるため、今後の設計に向けた叩き台をもとに、皆さんの「想い」を表現して頂きたいこと等を伝えました。その後、ワークショップの進行を、計画の策定事業者である西日本コンサルタント株式会社の徳永氏に引き継ぎました。今回もワークショップの様子を大分大学名誉教授の佐藤先生に見守って頂きました。

## 内容説明、前回の振り返り

**前回意見の整理**  
■第2回ワークショップ(ワーク②、③での意見整理)  
■共通する方向性  
・自然を活かす  
・積極的に整備する  
☆保護者の目子どもたち(きょうだい等)に届く  
■講評  
・海岸への軸線  
・歩行者の両遊性  
・ゾーン毎の整備の強弱  
・知力を育てる場(植生を学ぶ等)  
・周遊空間は空中へ  
・海への展望スペース確保(周遊空間含む)  
■重要なキーワード  
海

**コンセプトの提案**  
■コンセプト  
ぼくも！わたしも！みんなも！  
『365日、公園びより』  
全ての世代の誰もが、いつまでも、それぞれに楽しめる公園。何度来ても、毎回楽しめる公園。色んな所から、たくさんの方が来る公園。黒津崎の良さを、ずっと残す公園。  
■断面イメージ(地形的なつながり)  
宙 山 時 空 海

**今**回進める内容やスケジュール等について説明後、前回意見の整理や講評などを振り返りました。前回の意見の中では、「自然を活かす」と「積極的に整備する」ことをゾーニングで両立すること、「保護者の目子どもたち(きょうだい等)に届く」ことが共通する方向性として示されました。佐藤先生の講評では、海岸への軸線と歩行者の周遊性は両方大事であること、ゾーン毎の整備の強弱、知力を育てる場(植生を学ぶ場)、周遊空間を空中に設ける、海への展望スペースを確保すること等が示されました。また、計画の策定事業者からコンセプトの提案として、地域の特性を大事にしながら誰もが公園に親しめることの重要性が示されました。

## 自己紹介



わたしは子どもの頃、

- ・秘密基地×4
- ・虫捕り×3
- ・缶けり×3
- ・探検×2
- ・野球×2
- ・ボール遊び
- ・サッカー
- ・砂浜ゴルフ
- ・外遊び
- ・かくれんぼ
- ・すべりだい
- ・鬼ごっこ
- ・自転車
- ・一輪車
- ・スケートボード
- ・スリルを楽しむ
- ・紙飛行機
- ・分解
- ・釣り×4
- ・魚とり
- ・海水浴



をして遊びました。

**あ**らかじめ、分かれて着席していた各班の中で、自己紹介しました。「わたしは子どもの頃、〇〇をして遊びました。」というテーマで、あらかじめ名札に書いてもらい、自己紹介の時にその内容について説明して頂きました。皆さん、子どもの頃は外で活発に遊ばれていたようで、多様な遊びが見られます。「秘密基地」と「釣り」が最も多い4票を集めました。

## ワーク①(周辺とのつながりの検討)

公園と、周辺の施設や自然とのつながりについて話し合いました。公園と周辺とのつながりを考慮した施設のあり方やイベント、交通等、多様な観点からご意見を頂きました。



- ①班
- ・ウォーキングコースとして活用
  - ・風景が良い
  - ・海が見えると良い
  - ・キャンプに来た人が道の駅で買い物をしてほしい
  - ・ハマボウフウ
  - ・屋根をたくさん設置してつなげる
  - ・集客力のあるお店が周りにほしい。飲食店。
  - ・つながり
  - ・駐車場を有効活用する(道の駅の再整備)
  - ・公園に遊びに来た人が、散策、買い物も楽しむ
  - ・まつぼっくりのバスケットゴール
  - ・道の駅を活用する

- ②班
- ・全体的に街灯整備(ウォーキング)
  - ・周遊できるシステム(ポケモンGO等)
  - ・海で花火大会
  - ・「さ吉くん」に続く、うみがめグッズ
  - ・祠付近の景観を活かす整備が必要
  - ・自転車は外周のみ。公園内はバリアフリー、ウォーキング、子ども優先
  - ・春夏秋冬の季節でお花が見られるとよい
  - ・渋滞対策を考える必要がある
  - ・公園に周辺の情報発信(景観、カフェ)
  - ・近隣にない商業施設ができれば(若者が集まる)
  - ・道の駅と公園まで距離があるので、そこを通るバスなどがあるとよい
  - ・道の駅・ターミナルから移動手段設置(国東鉄道!?)

- ③班
- ・空港利用者との連携
  - ・恋人岬がある
  - ・夏祭りの復活
  - ・SONY 協力の電光掲示板(外国語対応)、施設案内(ヴィラ国東、BBQ、道の駅、トイレ)、イベント案内(花火、古墳)、遊具案内(各種、アクティブエリア)、フォトスポット案内、市民おすすめ一言
  - ・道の駅を広くとる、つなぐ
  - ・道の駅移転
  - ・砲台エリアを含めた整備を!
  - ・眺望がすばらしいので、必要な範囲で木を切ったりの整備を-
  - ・フォトスポット
  - ・アルプス岩に名前をつける
  - ・砲台を整備する。幕末。監視台を作る。
  - ・眺望台を作っていく

## 発表1(周辺とのつながりの検討)

ワーク①の発表では、道の駅や岬との連携、自然を活かした整備内容、ソフト面を含めたアイデア等、幅広い観点からの様々な意見について、方向性を整理しながら説明頂きました。



①班  
道の駅(夢咲茶屋、銀たちの郷、サイクルセンター)が第2駐車場付近の公園から見える場所にくると食べ物やお土産を買う人も増えるのではないか。松林での散歩コースや休憩所とソニー潮の香公園の連携、防災、動植物(ハマボウフウ)を育む。

②班  
道の駅との移動手段(簡易的なバスや電車等)やつながりの検討、将来的な駐車場出入口の改良、公園とサイクリングロードの分離のほか、花火大会やポケモンGO、「さ吉くん」グッズに加え、ウミガメや国東を象徴したグッズ等のソフト面を検討する。

③班  
かつての恋人岬の活用、眺めが良い展望台の整備、道の駅等の周辺の施設と人の動線をうまくつなげる。観光名所のようなフォトスポットで動線が生まれる。隣接する企業等と協働(パンフレット、電光掲示板、花火の復活等)で取り組む。

## ワーク②(公園プラン(案)の検討)

ワーク②では、公園プラン案について話し合い、事例を参考に各ゾーンに導入する施設を考えました。岬の方まで検討範囲を広げ、前回よりさらに具体的で様々な観点からのご意見を頂きました。



### ■プラン案(意見の整理)

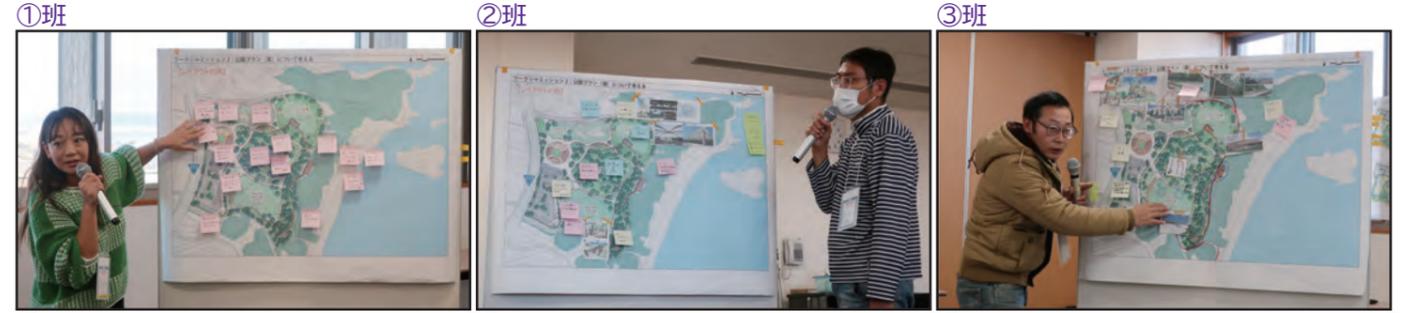


### ■検討の様子



## 発表2(公園プラン(案)の検討)

ワーク②の発表では、様々なアイデアや施設の配置等について、その理由やベースとなる考え方等を交えながら説明頂きました。内容は班毎に個性があり、いずれも面白く楽しい内容でした。



現プランは駐車場と児童向け遊具が遠く、幼児向け遊具と離れていてきょうだいに目が行き届かない。車道と遊具が近いと危険。立派な目玉の遊具より国東らしさを活かした整備(歴史や古代を感じる・学べる)、自然を生かした遊具(ターザンロープ、草スキー等)を置く方が、この公園とも雰囲気合う。公園の利用状況がわかる電光掲示板、木製の空中回廊、「お尻岩」にちなんで「おしり」をテーマに整備する(飛行機から見ると街灯がお尻の形、おしりをはめる「おしりパネル」等)。UFOのアートと高床式倉庫を併設する。

アクティブエリアにドッグラン整備、小規模休憩施設(フォーリー)を多く配置する。イベントエリアのステージに屋根を整備する。常設グリルを設置して、道の駅で買った海産物を焼けると良い。古墳エリアに、季節毎の花を植え、虫捕りできるような昆虫の好む樹木を植える。遊具は対象年齢ごとにゾーンを分ける。トイレの数をもう少し増やす。誰もが遊べるバリアフリー遊具、自然と調和した遊具(ウッド調)を整備する。国東半島ダイジェスト、子供が豊かに育つ公園、自然と共に豊かな心と体を育てる公園等のキャッチフレーズ案が出た。

大型遊具とふわふわドーム等の遊具関係は広いところに一緒にあった方が良い。アクティブエリアにサイクリングロード・ターミナルと連携したサイクルパーク、スケボー、バスケットゴール等を整備する。雨天でも遊具を使用できる環境づくり、トイレやベンチの点在、レンタルゴザの提供、キャンプゾーンの設定、岬への街灯設置や木の伐採、「恋人岬」と名付ける、お尻岩付近での交通安全や安全祈願等の意見が出た。電光掲示板の情報をネット配信して、空港利用者にアピールするなど、公園付近の情報を総合案内するアナウンス力を高める。

## まとめ、講評、閉会



徳永氏

**ま** ともとして、徳永氏から、皆様のご意見を踏まえて今後設計を進めるにあたり、空間のまとまりについて概ね共有できたと考えていること、動線は自転車道や道の駅とのつながりを発展的に考えること、「おしり」というキーワードから安全性や丸みのあるデザイン等「優しさ」につなげること、「国東半島ダイジェスト」として子どもの知力向上にもつながる自然環境・歴史・世界農業遺産・国東での暮らし等を風景とともに説明できる国東半島の魅力が詰まった場とすること、ゾーン毎の注意点に加えて岬の活用方針等の周辺のことも含め設計に反映したいこと、運営面も重要な課題であること、たくさんの充実したご意見・協議を受け止めて進めていきたいこと等が説明されました。



佐藤先生

**講** 評として、佐藤先生から、皆様のご意見をまとめていけば良い公園になること、黒津崎ならではの魅力・期待感・意外性で市内外の人を惹きつける公園を目指すこと、空中回廊は地上の動線とクロスするなど地上と異なる動線で各エリアを相互に連携させつつ古墳エリアの植生が見えるような動線設定や高低差のアクセントを付けること、両子山系から海岸への稜線など国東の地形的な特徴が見える視点場を確保すること、海へのアクセスや子どもが海を体感できる工夫が必要なこと、情報発信の工夫、PFI、設計プロセスのワークショップ参加者との共有の他、黒津崎地域や国東全体の活性化の鍵をこの公園が握っていること等、様々な観点からアドバイスやご指摘を頂きました。



伊藤 課長

**閉** 会あいさつとして、伊藤課長から、3回のワークショップをまとめた成果を基につくる公園が中心に起爆剤となって周辺が発展するのを期待していること、費用対効果の高い公園を目指したいこと、公園ができるまでの今後の数年間もご協力をお願いしたいこと等をお伝えした後、3回のワークショップへのご協力に感謝申し上げ、閉会しました。参加者アンケートでは、国東らしい、わくわくできる、感動を与える、みんながずっと楽しめるような公園等を期待するご意見の他、ワークショップに楽しく参加できたというご感想もいくつか頂きました。